

## 2年 普通科「探究応用」、国際探求学科「国際探求応用」の取組

### 1. 概要

S R科は学校設定科目「理数探究応用」において探究活動を行い、生徒研究発表会に取り組んできた。この活動を普通科、国際探求学科にも広め、全校的に探究活動を行うため、平成23年度から「総合的な学習(探究)の時間」において課題研究を実施してきた。また、一昨年度より学校設定教科「小田高リサーチ」の学校設定科目「探究応用」として取り組んでいる。その中で、自ら設定した課題について調査研究することにより、課題発見能力、情報収集能力、問題解決能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力の育成を目指している。ここで培った能力や態度は、将来大きな課題に立ち向かう場面に役立つと考えられる。

### 2. 仮説

本校が設定する「現代の諸問題に主体的に関わることができる人材の育成を目指す」という課題に対して、普通科、国際探求学科の生徒にも「探究応用」の時間を設けて探究学習に取り組ませ、課題発見、調査、まとめ、発表の一連のサイクルに挑戦させることで、課題についての成果を得ることができると推測する。

### 3. 経緯と状況

本年度は2年生の普通科に11名、普通科看護医療・健康類型に2名、国際探求学科に3名とALT1名の、合計17名の教員が担当した。どの学科・類型も、昨年度の反省も踏まえながら指導することで、より深く探究活動を行うことができ、発表も全体的により良いものとなった。また、一昨年度から学校設定教科として取り組んでいるので、評価は文章表記ではなく、数値での評価を行っている。ルーブリックは昨年度のものを一部改訂しながら使用した。評価に用いたルーブリックは別紙を参照。

年間計画	普通科文系・理系	国際探求学科	普通科特色類型
1学期前半	探究の方法・基礎・練習	探究テーマ設定	探究の方法・基礎
1学期後半	講座に分かれ個人の探究活動・班編成	文献検討&小テーマ設定	班をつくり話し合い
2学期前半	班別活動	ワークショップ、アンケート、インタビュー実施	班での探究活動
2学期後半	班別活動と発表用のスライド作成	調査内容の整理&考察	
3学期	発表会のためのポスター作成	発表会に向けて	発表会に向けて
成果発表会 (抜粋)			1/25(土) 探究応用報告会(口頭発表)
			1/29(水) 52回生「探究応用」発表会(普通科53班・国探7班・類型13班 全班ポスター発表)
			2/3(土) SSH生徒研究発表会 口頭発表4班・ポスター発表12班
		1/25(土) 神戸市外国語大学の学生とポスター発表交流会	2/1(土)・3/2(日) 在宅療養ワークショップにて発表 2/22(土) 薬剤師会健康フェアにて「認知症700万人時代のACP」上演(演劇) 3/22(土) 阪神医師会健康フェアにて同タイトルを上演(演劇)

### 4. 事業の内容

普通科は水曜日3、4時間目の2単位、国際探求学科は木曜日7時間目の1単位で実施した。普通科看護医療・健康類型は月曜日2時間目と木曜日の1限目の2単位で実施した。普通科(157人・53テーマ)国際探求学科(39人・6テーマ)について、ポスター発表の際に、関連するSDGsのアイコンを掲示した。

令和6年度「探究応用」のSDGsによるテーマ分類(延べ件数)

[1 貧困] 1件	[2 飢餓] 2件	[3 保健] 14件	[4 教育] 5件	[5 ジェンダー] 4件	[6 水・衛生] 1件	[7 エネルギー] 2件	[8 経済成長と雇用] 2件	[9 産業界・産業化・イノベーション] 3件
[10 不平等] 6件	[11 持続可能な都市] 13件	[12 持続可能な消費と生産] 6件	[13 気候変動] 1件	[14 海洋資源] 5件	[15 陸上資源] 4件	[16 平和] 2件	[17 パートナリシップ] 0件	

### 5. 事業の効果とその評価

生徒達への事後アンケートでは、発表をしてよかったと答える生徒が91%、他の人の発表を聞いてよかったと答えた生徒が98%、聞いてもらってよかったと答えた生徒が93%、質問に答えられたと答えた生徒が86%であった。同じ質問に対して、昨年度はそれぞれ87%、97%、90%、80%で、全ての項目について昨年度よりも生徒の満足度が高い発表会であった。一般の方や普通科の下級生に加えて、今年度から他の科や類型の同級生や下級生と一緒に発表会をしたことで、多様な聴衆を相手に発表でき、満足度が高まったのではないかと考えられる。生徒の自由記述にも「いろんな方々に発表をきいてもらい、質問から新しい視点を発見できました。」等のコメントがあったことから、より良い発表会のために聴衆の確保が重要だと感じた。

## 3年 普通科「探究実践」、国際探求学科「国際探求実践」の取組

### 1. 概要

2年生までに行ってきた探究活動を振り返り文章化することで、これまでの活動を整理し文章で表現できる力を身につけることを目指す。また、自身がどのようなことを学んできたのか、どのような力が身についたのかを改めて確認させることを目指す。

### 2. 仮説

- ① 自身の活動を文章化することで、探究のサイクルを整理する力を身につけることができるのではないか。
- ② 探究学習で得た能力を異なる場面に転用する経験を通して、どのような力を自分が身につけることができたのか自覚することができるのではないか。

### 3. 経緯と状況

3年生の特色類型を含む普通科5クラスと国際探求学科1クラスの合計6クラスを14名の教員と1名のALTが担当した。1学期は1クラスに教員2人か3人ずつのT.T.で探究活動の文章化の指導を行った。2学期は探究学習で得た能力を転用する場面を設定した。クラス合同またはクラス単位で取り組むディスカッションやプログラムを4時間と、未来に関する探究学習と発表を7時間設定した。3学期は今までの探究活動の振り返りを行った。

### 4. 事業の内容

2年生までは普通科の特色類型と国際探求学科の「総合的な探究の時間」は単位数の違いや活動の違いがあるが、3年生の「総合的な探究の時間」を共通して学校設定教科「小田高リサーチ」の学校設定科目「探究実践」と設定し、金曜日4時間目の1単位で実施した。

### 5. 事業の効果とその評価

生徒達への事後アンケートの結果、1学期の文章化については、自身の力になったと答えた生徒が93%、将来の役に立つと思った生徒が89%であり、文章としてまとめる難しさはあるものの、取り組む意義はあったと考えられる。1学期に文章化した全生徒の内容については、「51回生探究活動報告集」として冊子にまとめた。

2学期前半のディスカッション等については、「累進課税を考える」教材について、「面白かったと思うもの」のアンケート結果では最下位だが、「学んで良かったと思うもの」では首位になっていた。難しい教材ではあったとしても、実社会を題材にしたものに学ぶ意義を感じる生徒が多いことがうかがえた。2学期後半の「未来探究」については、「積極的に取り組むことができましたか」に94%、「個人ではなく班で学んだのは良かったと思いますか」に91%の生徒が肯定的に答えており、探究学習で培った主体性や協働性を発揮でき、実感も持っているのではないかと考えられた。